

女性の積極登用、企業成長の鍵

拡大RMBに就活生147人

大阪新卒応援ハローワークで12月1日、拡大レギュラーマッチングブース（RMB）説明会・面接会があり、大学生ら147人が参加。女性を積極的に採用している企業15社との面談に臨んだ。写真。



女性を積極的に採用、登用する企業が増えている。気配りや細やかなサービスを商品開発や接客に生かす狙いだが、重要なのが女性を支える優しい職場環境だろう。「育児休暇は取得しやすいか」「出産後も安心して働ける社風か」。就職活動中の若者が企業選びで重視する点だ。労働条件の向上は人材確保の鍵といえ、企業側のまなざしも真剣そのもの。本紙では、男性中心といわれる組織で活躍する女性や、女性を積極登用したり、「くるみん」を取得した企業の動きを2回に渡り紹介する。

気配り、サービス細やかに

く、女性が働きやすい職場づくりに力を入れている。


転機は5年前。全員と懇談するの離職が続き、ブランドへのマイナスイメージが懸念された。「離職の理由は何か。何か

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省 大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル18階
TEL 06-7709-9455
FAX 06-7709-9458
http://osaka-young.
site.mhlw.go.jp

第14号

2014年12月19日

 大阪新卒応援ハローワーク



- 3 HW3施設
面接会に623人
- 4 院修了・無職から
念願の英文記者に

「面接では素朴な方に魅かれる。事前に店舗を見学し弊社のブランドを理解したうえで面接に臨まれる方は、私の目を見てしっかりと話される。そんな方は入社半年で、本当に成長する」。

婦人向けのドイツ製高級織物「フエイラー」と、イタリアのシャツ・ブラウス「ナラカミーチエ」。二つのブランドを展開する住商ブランドマネジメントの総務人事部担当者はこう語る。

同社は女性社員の比率が高

「プラチナくるみん」よろしくね



厚生労働省はこのほど、次世代育成支援対策推進法（次世代法）の改正に伴い、新しい「くるみんマーク」＝写真上＝と「プラチナくるみんマーク」＝写真下＝を作成した。「くるみん」は企業が従業員の仕事と子育ての両立への行動計画を実施した結果、一定の要件を満たし厚生労働大臣の認定を受けた場合、商品などに表示できるマーク。「新くるみん」は、認定を複数



回受けている企業を評価し、取得回数が目分で分かるよう回数に応じて星が増えていくデザインにした。「プラチナくるみん」は、くるみん取得企業のうち、さらに両立支援が進んでいる企業が一定基準を満たし特例認定を受けた場合に表示できるマーク。マントと王冠を付け、取得企業よりも両立支援の取り組みが進んでいることを表現した。

とか手を打たねば」。そんな中、取り組んだのは徹底した面談だった。「企業は人。特に新入社員は上司や同僚との人間関係に悩んでいないか、入社半年後、全員と懇談する。体調を崩していないか、会社の方針を理解しているか、同期とは何でも話し、刺激し合える関係か」を丁寧に聞き取りケアをする。この時期を乗り越えようと仕事に対するモチベーションが高くなり2、3年後には非常に力がつく」と総務人事担当者は強調する。

労働条件面でも改善を急いだ。今年7月には2つのブランドで働く社員の労働条件を均一化。契約社員70人は正社員に登用された。「安心して仕事に集中できることで社員のモチベーションが上がり、業績向上にもつながっている」。扱う商品は赤ちゃんから高齢者向けと幅が広い。各店舗では、若いスタッフとともに40—50歳代のベテランスタッフが活躍している、という。

（記事、2面に続く）

研修制度も充実させた。秋冬コレクシヨンのテーマの共有や、セールストークの統一など、店長だけでなくスタッフ全員が参加して共通認識を持ち、知識やスキルアップ向上に繋げた。

育児休業休暇制度は現在6人が取得。職場復帰後の時

短制度は3人が利用し仕事と子育ての両立を図っている。特に育児復帰後の時短勤務はスタッフとの協力が不可欠。そこで、2年前に導入したのが育児休業復帰支援プログラムだ。他のスタッフの負担を軽減するため、復帰1カ月前から社員と店長、営業担当

スーパーバイザーの4人態勢で復帰後の環境を整えている。

「女性をターゲットにしてる両ブランドには女性のきめ細かいサービスの提供が必要だ。新卒採用を増やすことで新しい風を吹き込み、チームワークの良い職場、長く働ける職場を目指す」。

「私のような普通の人々が隊員で仕事をしています」



栄養士志望が自衛官に 有事は通信で後方支援 「見守ってくれる組織」

「栄養士の資格を生かして自衛隊員の食事が作れたら」という軽い気持ちだったんです。ところが入隊したら、10*の行軍や武器の分解、戦闘訓練と…。まさか自分が今の

仕事に従事しているなんて想像していなかったですね。防衛省自衛隊大阪地方協力本部総務班庶務係の28歳2等陸曹は笑顔で入隊当時を振り返る写真。

兵庫県内の女子短期大学を卒業し、平成18年3月に入隊した。庶務係では、部長の

いわば秘書官を務める。「本部長が業務を円滑に進められるよう、いかにサポートするか。まさに事務の仕事。心配りが足りず、ああすればよかつた」と振り返る毎日です。

将官が本部長を務める地方協力本部は東京、大阪、沖縄の3カ所にしかない要職。2人の男性上司に指示を仰ぐも、素早い判断力と行動力が求められる。

普段から大切にしていることは「元気、責任感、思いやり。この人のために仕事をやり

り遂げると思えるかが大事」と話す。

専門職種は通信科。部隊間の通信網を構築する仕事だ。基地と野外を有線などで結びホットラインを設置する。

「有事の際は、いかに指揮命令をスムーズに行えるかが鍵。電話をすぐに掛けられるよう機器の設定を行うなど、通信係は重要後方支援を担っている」と強調する。

自身も2011年の東日本大震災では、伊丹駐屯地と、東北の被災地で救援活動を行う自衛隊の部隊を結ぶホットラインの構築に努めた。

仕事の原点は入隊直後の厳しい訓練で培われた。計6カ月間、男女同じカリキュラムで自衛隊員の基礎を徹底的に叩き込まれる。例えば行軍。1人20*の装備を抱え1日10*を歩いた。

「私は運動部の経験は全くなし。中学高校は箏曲部。アルバイトはホール係だし、腕立て伏せすらできないレベルだった」。靴擦れや足腰を痛

めたり、本当に辛かったという。

「こんなしんどいこと、もう辞めたいわ」。そんな厳しい訓練で壁にぶつかつた時、励ましてくれたのが部隊の班長や同期生だった。

「たとえ今、(自衛隊を)辞めても、今のままじゃ、何事も決まらなくていいから」という人。「人は『やろうぜ』という人についていく。しんどい時こそ楽しんでやる」「自分が頑

張らないと、だれが人を助けるんや」。一。

「あの時の経験があるからこそ、辞めずに続けよう、続けられると思えた」。心が折れそうな時、周りからもらった言葉が今の自分を支えている、と振り返る。

「厳しい中にも、決して人を見放さない組織。体力のない私のような普通の人々が、隊員になり仕事をしている。見守り励ましてくれるのが自衛隊なんです」。

グループデイスカッション 1月から基礎 実践編始まる

模擬グループデイスカッション(GD)の基礎編が1月16日、実践編が30日いずれも午前10時半から、大阪新卒応援ハローワークで開かれる。GDはメガバンクやメーカーなど大手企業が毎年、採用試験で導入しており、就活生から「どのような準備をすればいいかわからない」との声も聞く。講座はグループワー

クのポイントや、他人の意見を聞く大切さを座学と実践で体験する。参加者は座学でポイントを学んだ後、実践演習に。「あなたにとって働くとは」などをテーマに議論を展開。最後にグループの意見を集約し発表する。講師は議論の視点や話を聞く態度などを講評する。予約は電話06(7709)9455へ。

就活・お悩み相談

Q 「どんな仕事や会社を選べばよいのか分からず悩んでいます」

ミスマッチの回避を 新卒採用をめぐる課題に学生と応募企業の「ミスマッチ」があります。いわゆる「七五三現象」という離職率を示した統計です。これは新卒学生が入社後何年以内に退職するかを割合で示したもので「中卒が7割、高卒5割、大卒では3割の新入社員が3年以内に会社を辞めてしまう」と報告されています。

「社風になじめない」「人間関係に悩んだ」「仕事が不向きだった」一が主な退職理由ですが、これらのケースを見ると、仕事や自己に対する就活生自身の理解不足が根底にあるように思えてなりません。

特に近年、インターネットによる応募が主流となり、就活サイトでの大量応募、大量選考は就活の効率化を飛躍的に高めた、ともいわれています。その一方、企業研究は中途半端なまま、有名企業に手当たり次第応募する学生の姿も見られます。

大阪新卒応援ハローワークの相談窓口でも周りの学生に比べ応募件数が少ないことに焦りを感じ、企業研究もしないまま、知名度などから手当たり次第に応募。その結果、選考に残れない現実に徒労感ばかりが残り、次第に気力も薄れ「自分は必要とされていないのではないか」と自信を喪失してしまうケースが見受けられます。

仕事への十分な理解と自己分析なく「数撃てば当たる」という姿勢では、成功は、おぼつかないでしょう。

自分の適職、企業を探そう では具体的にどう探せばいいのか。そのヒントはHWの「求人票」にあります。みなさんが求人票に記載の労働条件で譲れない点は何ですか。

職種、仕事内容、休日数、残業時間、勤務地、転勤の有無を見る方は多いでしょう。ライフスタイルと密接に関わる大切な要素です。加えて充実感を持ち仕事を続けるうえで注目して欲しいキーワードがあります。それが「職場環境」です。言い換えれば「居心地の良さ」です。ではそのものさしは何か。「離職率の低さ」「勤続年数の長さ」で測れる企業価値です。

朝起きて仕事に向かうエネルギーが湧く会社に出会えれば、充実した仕事が見つけれられたといえます。仲間が待っている。上司に評価されたい。自分の活躍で会社に貢献したいという帰属意識。仕事へ向かうことにワクワクする感情が芽生えたら、幸せな就職ができたといってよいでしょう。家庭と仕事の両立を図るワークライフバランスを積極的に推進している企業、社会貢献活動をアピールしている企業にも注目してください。厚生労働省「若者応援企業」のWEBサイトにある約600社の「事業所PRシート」も企業の中身が確認できるのでお勧めです。まずはみなさんが社会人として仕事を楽しみ、熱くなれることを基準に労働条件を比べてみてはいかがでしょうか。(J S 小黒義和)

大阪新卒・わかハロ・外国人センター面接会 623人参加、盛況に

12月1日の大阪新卒応援ハローワークの拡大RMBには、大勢の女子学生が訪れた。プール学院大生は「アルバイトで人と接する仕事に就きたいと思った」と盛業職の説明会に。企業選びのポイントについて近畿大生は「職場の雰囲気と人間関係を重視したい」と話し、求人票や参加企業PRシートに目を走らせていた。



真II。面接の順番を待つフロアでは、用意したイスでは足りず、急ぎよ4人掛けの長イ



スや職員用のイスも用意され、開始時間を30分早めて始まった。面接会では、部活メンバーや病院での事務職などが人気だった。中には面接希望者が60人を超える企業もあった。12日には「外国人留学生&

女性の活躍、感じて

今号では、女性の活躍促進を考えている企業や活躍している方を取材し取り上げました。企業はなぜ女性の活躍を期待しているのかやすでに活躍している女性の姿を感じ取っていただければと思います。また最近取り上げていなかった「就活・お悩み相談」コーナーを掲載しています。就活が長期化している方、企業選定の悩みを抱えている方は必見です。ジョブサポーターが相談に応じます。気軽に窓口までお越しください。

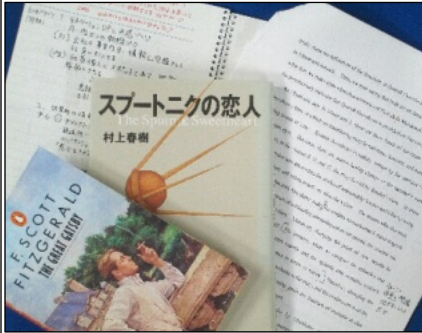
グローバル人材」の面接会があり、留学生ら160人が参加したII写真上。事業内容について熱心に質問する姿や、面接の順番待ちに長い列も。大阪新卒応援HWなど阪急グランドビル内3施設で12月に開かれた面接会には計623人の就活生が訪れた。

■大学生就職内定率、68・4% 厚生労働と文部科学両省によると、平成27年3月に卒業する大学生の就職内定率(平成26年10月1日現在)は68・4%と前年同期比で4・1ポイント増加し4年連続上昇した。男女別では男子が67・6%、女子が69・4%と男子を上回った。文系は67・3%、理系は73・5%だった。

院修了・無職のハルキスト、諦めず英文記者に

関西外国語大学大学院
外国語学研究科前期修士課程修了
既卒男性

英語と文学が好きで大学院に進学。村上春樹をテーマにした論文で修士号を取得するも就職はできなかった。「仕事のない自分の居場所はどこに?」。失意の中、24歳・大学院修士課程修了・無職のハルキスト(村上春樹ファンの呼称)がたどり着いたのが大阪新卒応援ハローワーク(HW)だった。書く仕事を最後まで諦めず、自分の生きる軸を見つけた軌跡を振り返る。



修士論文の草稿と就活ノート

わたしの就職活動日記 14

英語と文学、自分の軸を仕事に

◆就活を始めたのはいつか。

大学院時代から1年8ヵ月前。当時はマスコミ志望だった。本が好きで書く仕事が出来たかった。出版社や広告代理店など15社を受けたが全滅。ハードルの高い大手ばかりを狙い、視野も狭かった。

◆修士論文は村上春樹と米国の作家、スコット・フィッツジェラルドとの関係性についてとか。

村上春樹については、大学の図書館で短編集を読み興味を持った。「風の歌を聴け」が最初だった。彼の文章は読んでいた時はピンとこないが、後で考えてみると「ああ、こ

ういうことを言いたかったんだ」と思わせる。テーマ設定や文体はフィッツジェラルドの影響を受けており、その点を論文にしたいと考えた。だが、現代文学は資料が少なく収集も大変。論文は読解や謎解きが多く直接、どんな影響を受けているのか、村上自身も語っていない。指導教授から「米英の作家との比較

は無職。どうやって仕事を探せばいいのか、それすらも分からなかった。この時期は自分の居場所が分からず「仕事をしていない自分」という現実になっていった。

◆そんな時、大阪新卒応援HWを知る。姉のアドバイスだ。大阪で働きたいと思い、梅田周辺のHWを調べた。登録後、PCを使い求人を探したが、求人票から得られる企業情報も限

事があると知った。自己PRはアピールでのアルバイト経験を伝えた。仕事は華やかな売り子ではなく、倉庫整理。ダンボールからひたすら商品を取り出しハンガーに掛けたら、在庫整理をしたり。閉ざされた空間で単調な作業。アルバイトでありながら、日々改善と反省が求められる。仲間が多くが去っていく中、私は単調で人が嫌がる仕事も続けることでやりがいに変わるものだ、と知った。きつい

講座を受けなければ多分間違った自己流の所作を今も続けていただろう。「個別模擬面接」では、志望動機が回りくどいと指摘され、本番では「簡潔さ」を心掛けた。

◆最終面接はどうだったか。社長と1対1。すでに3回、自腹で上京しており、「こまできたら採用されるしかない」と度胸を握る。自営業の父が企業の広報紙で紹介され、その記事を読んだ。息子として心が熱くなった話と、家族に仕事を伝える広報の仕事の尊さを話した。社長から「よろしく」の言葉をいただき、一気に肩の力が抜けた。

◆2年近い就活も終わった。好きだった英語と文学。その経験が仕事で生かせる。諦めないでよかった。就職が決まらず心さすらう日々。自分の立ち位置を見失いかけた時もあつたが、多くのJSの支援が励みになった。院は出たが無職、という重い現実にかかりと向き合えたことで、自分の生きる軸が、生まれた。